

抗菌薬意識調査レポート 2018

2018年10月30日

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター

【調査目的】

薬剤耐性(AMR)は世界的な問題となっており、幅広い対策が求められている。日本でも2016年に薬剤耐性(AMR)対策アクションプランが発表され、それに基づく取り組みが行われており、これまでAMR臨床リファレンスセンターではAMRに関するさまざまな情報発信を行ってきた。今回は、一般国民が抗菌薬・抗生物質について正しく理解しているか現状を把握するために意識調査を行った。

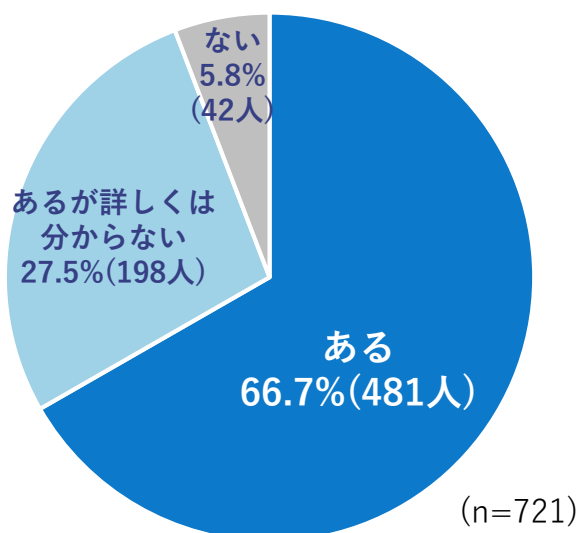
【調査概要】

- 集計期間：2018年8月30日～9月3日
- 調査方法：インターネット集計
- 調査対象：10代～60代の男女
- 調査人数：全国721名
(性別：男性360名、女性361名 年齢：15～19歳 120名、20～29歳 120名、30～39歳 120名、40～49歳 121名、50～59歳 120名、60歳以上 120名)

※設問（1）（4）を除く設問は、抗菌薬・抗生物質という言葉で「聞いたことがある」「聞いたことはあるが詳しくはわからない」と回答した679人分の集計データとなります。

(1) 抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことはありますか？

- 「ある 66.7%」「あるが詳しくはわからない 27.5%」であり、回答した人の95%近くが抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことがあった。



(2) 抗菌薬・抗生物質はどのような薬だと思いますか？（複数回答）

- 正しい回答である「細菌が増えるのを抑える」と回答した人は71.9%と7割以上の結果となり、抗菌薬・抗生物質についてある程度正しい知識を持っている人が多いということがわかった。しかし一方で、「痛みを抑える」「熱を下げる」「がんを治す」「気分が落ち込む」など誤解している人も多かった。

○	細菌が増えるのを抑える	488人	71.9%
×	熱を下げる	278人	40.9%
×	痛みを抑える	271人	39.9%
×	咳をとめる	69人	10.2%
×	がんを治す	61人	9.0%
×	眠くなる	58人	8.5%
×	下痢を起こしやすい	49人	7.2%
×	あてはまるものはない	26人	3.8%
×	気分が落ち込む	19人	2.8%
	その他	6人	0.9%

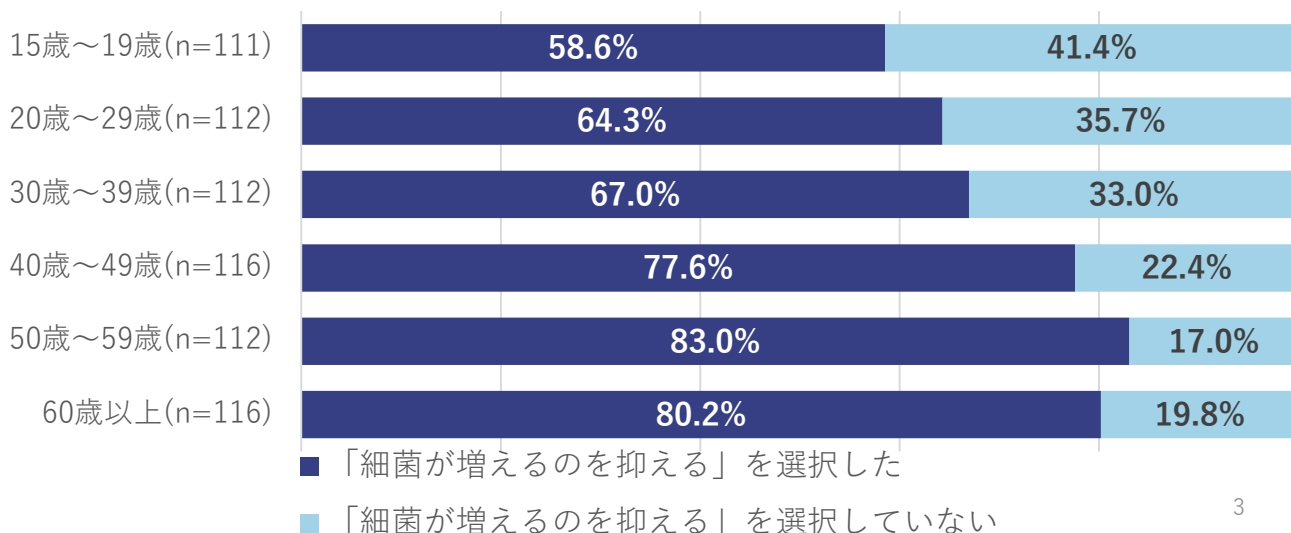
(n=679)

- 「抗菌薬・抗生物質という言葉を知ったことがありますか？」の設問において、「ある」「あるが詳しくはわからない」と回答した人それぞれに「抗菌薬・抗生物質はどのような薬だと思いますか？」と質問したところ、「ある」と回答した人（ある程度抗菌薬・抗生物質を知っていると自己申告した人）のほうが、「あるが詳しくはわからない」と回答した人に比べ、「抗菌薬は細菌が増えるのを抑える」薬であると正しく理解している人が多かった。
- 一方で、抗菌薬・抗生物質は「痛みを抑える」「熱を下げる」薬だと誤認識している人の割合は、抗菌薬・抗生物質という言葉を知ったことが「ある」と回答した人と、「聞いたことはあるが詳しくはわからない」と回答した人とではほとんど差がなく、多くの人が抗菌薬はさまざまな症状を直接抑える薬であると誤認識している可能性があることがわかった。

	「抗菌薬・抗生物質という言葉を知ったことが	
	ある (n=481)	あるが詳しくは わからない (n=198)
○ 細菌が増えるのを抑える	372人 (77.3%)	116人 (58.6%)
× 熱を下げる	204人 (42.4%)	74人 (37.4%)
× 痛みを抑える	191人 (39.7%)	80人 (40.4%)

(複数回答)

- 年齢群別にみると、「細菌が増えるのを抑える」と正しい回答をした人の割合は、年齢が高くなるほど大きくなる傾向にあり、抗菌薬・抗生物質の作用を正確に理解していることがわかった。ここから、若い人ほど抗菌薬・抗生物質について正しい知識が乏しいことが伺える。



(3) 抗菌薬・抗生物質がどのような病気に有用か知っていますか？（複数回答）

- 「かぜ 49.9%」「インフルエンザ 49.2%」と、約半数が抗菌薬・抗生物質がかぜ、インフルエンザに効くと誤認識していた。

×	かぜ	339人	49.9%
×	インフルエンザ	334人	49.2%
○	膀胱炎	181人	26.7%
○	肺炎	175人	25.8%
×	ノロウイルス	158人	23.3%
○	中耳炎	136人	20.0%
	わからない	98人	14.4%
△	下痢	64人	9.4%
	特に効果はないと思う	18人	2.7%
	その他	7人	1.0%

(n=679)

- ある程度抗菌薬・抗生物質を知っていると自己申告した人のほうが、抗菌薬は「肺炎に効く 29.7%」「中耳炎に効く 24.5%」などと正確に理解していたが、その一方で「かぜに効く 55.1%」「インフルエンザに効く 53.4%」「ノロウイルスに効く 25.8%」と誤認識している人も多かった。ここから、多くの人が抗菌薬を感染症全般に効く薬と捉えている可能性があることが伺える。

	「抗菌薬・抗生物質という言葉聞いたことが	
	ある (n=481)	あるが詳しくは わからない (n=198)
× かぜ	265人 (55.1%)	74人 (37.4%)
× インフルエンザ	257人 (53.4%)	77人 (38.9%)
× ノロウイルス	124人 (25.8%)	34人 (17.2%)
○ 肺炎	143人 (29.7%)	32人 (16.2%)
○ 中耳炎	118人 (24.5%)	18人 (9.1%)

(複数回答)

(4) かぜで受診したときにどんな薬を処方してほしいですか？（複数回答）

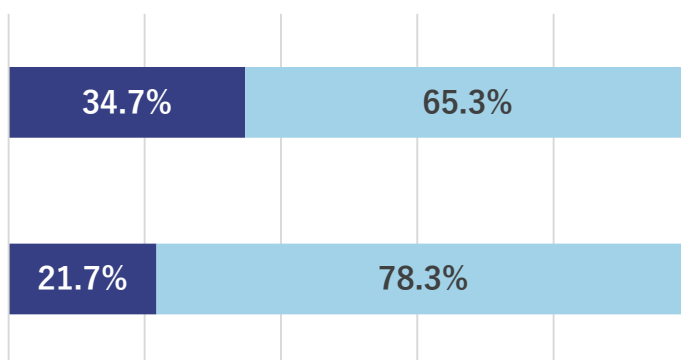
- かぜで受診したときに咳止め、解熱剤など症状をやわらげる薬を処方してほしいと思っている人が多かった。その一方で、かぜには効かない抗菌薬・抗生物質を選択した人が30.1%いた。

咳止め	446人	61.9%
解熱剤	431人	59.8%
鼻水を抑える薬	382人	53.0%
抗菌薬・抗生物質	217人	30.1%
痰切り	210人	29.1%
痛み止め	130人	18.0%
トローチ	99人	13.7%
うがい薬	98人	13.6%
胃薬	69人	9.6%
その他	18人	2.5%

(n=721)

- 抗菌薬・抗生物質という言葉を知ったことがある人（ある程度抗菌薬・抗生物質を知っていると自己申告した人）のほうが、「聞いたことはあるが詳しくはわからない」と回答した人よりもむしろ「かぜに抗菌薬を処方してほしい」と考えている人の割合が高かった（それぞれ34.7%、21.7%）。抗菌薬がかぜを含めたさまざまな感染症に効く薬であると捉えている人がいるものと考えられる。

「抗菌薬・抗生物質という言葉を知ったことがある
(n=481)



- かぜで受診したときに抗菌薬・抗生物質を処方してほしい
- かぜで受診したときに抗菌薬・抗生物質の処方を求めない

(5) あなたが思う抗菌薬・抗生物質とは、どれですか？（複数回答）

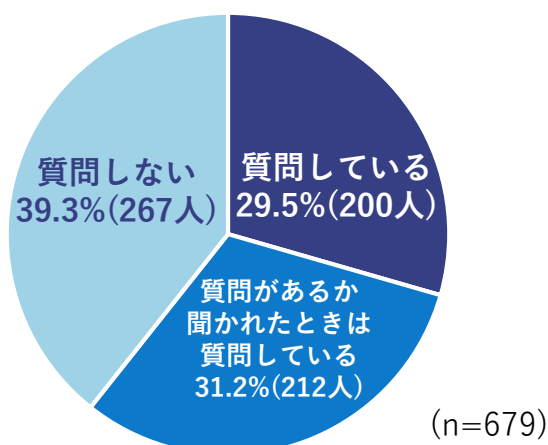
- 抗菌薬5種類と、抗菌薬以外7種類の全12種類の薬（調査票には商品名や一般名を記載）から、抗菌薬はどれかを尋ねたところ、上位5種類のうち3種類が抗菌薬以外の薬であった。抗菌薬ではない薬を抗菌薬だと思い込んでいる人が少なくない。

×	T（抗ウイルス薬）	199	29.3%
○	P（抗菌薬）	185	27.2%
×	L（鎮痛解熱薬）	123	18.1%
○	C（抗菌薬）	102	15.0%
×	B（鎮痛解熱薬）	98	14.4%
○	F（抗菌薬）	88	13.0%
×	A（抗アレルギー薬）	83	12.2%
○	L（抗菌薬）	76	11.2%
○	Z（抗菌薬）	56	8.2%
×	P（総合感冒薬）	55	8.1%
×	C（鎮痛解熱薬）	51	7.5%
×	G（胃薬）	15	2.2%
	その他	14	2.1%
	あてはまるものはない	176	25.9%

(n=679)

(6) 抗菌薬・抗生物質についてわからないことがある時、医者や薬剤師に質問していますか？

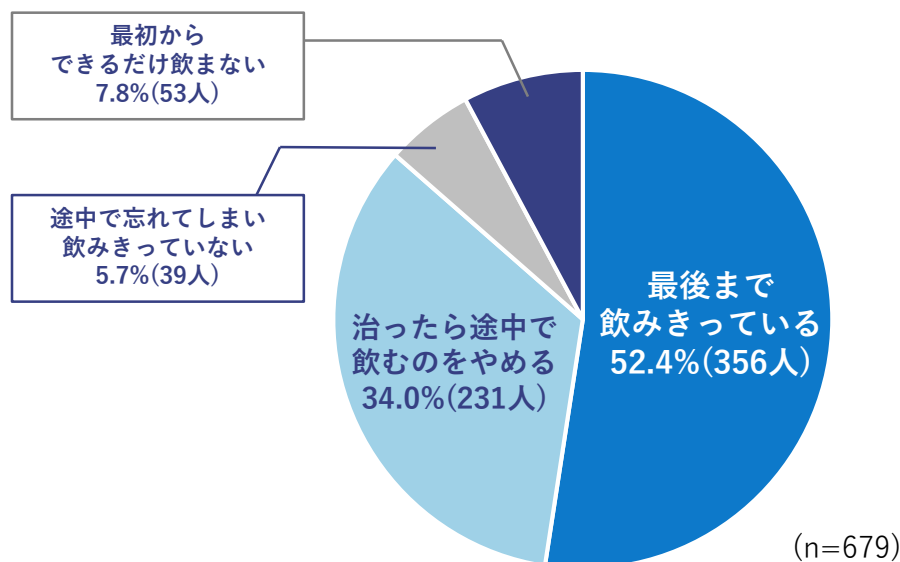
- 「質問しない 39.3%」と、抗菌薬・抗生物質についてわからないことがあっても質問していない人が4割近くいることがわかった。



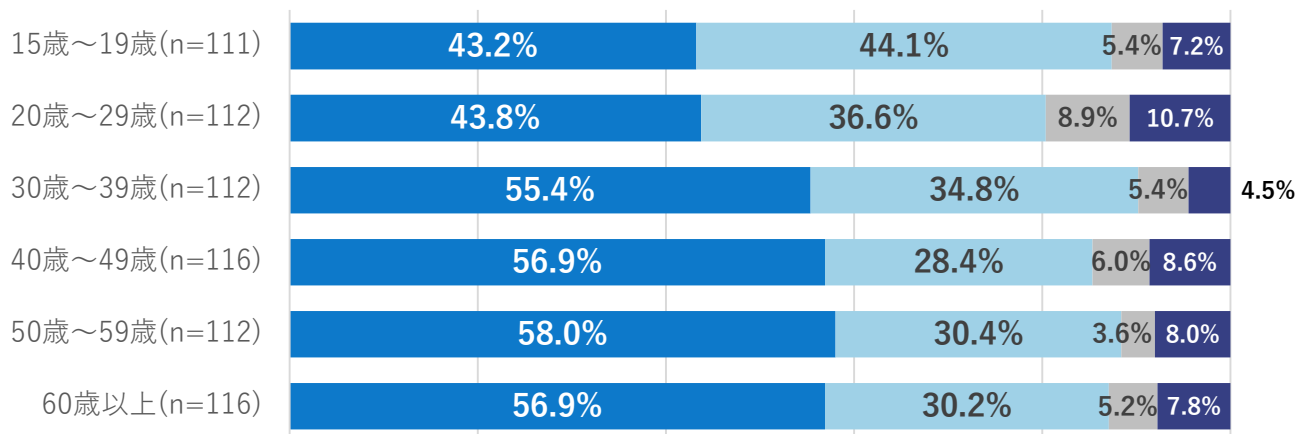
(7) 処方された抗菌薬・抗生物質を飲み切っていますか？

- 「最後まで飲み切っている」と正しい抗菌薬・抗生物質の服用ができている人は52.4%と、約半数であった。「治ったら途中で飲むのをやめる 34.0%」「最初からできるだけ飲まない 7.8%」「途中で忘れてしまい飲み切っていない 5.7%」と、誤った服用をしている人がいた。

抗菌薬はたとえ症状がよくなったからといって途中で服用をやめてしまうと感染症がきちんと治らない恐れがあるため、医師の指示通り最後まで飲み切る必要がある。

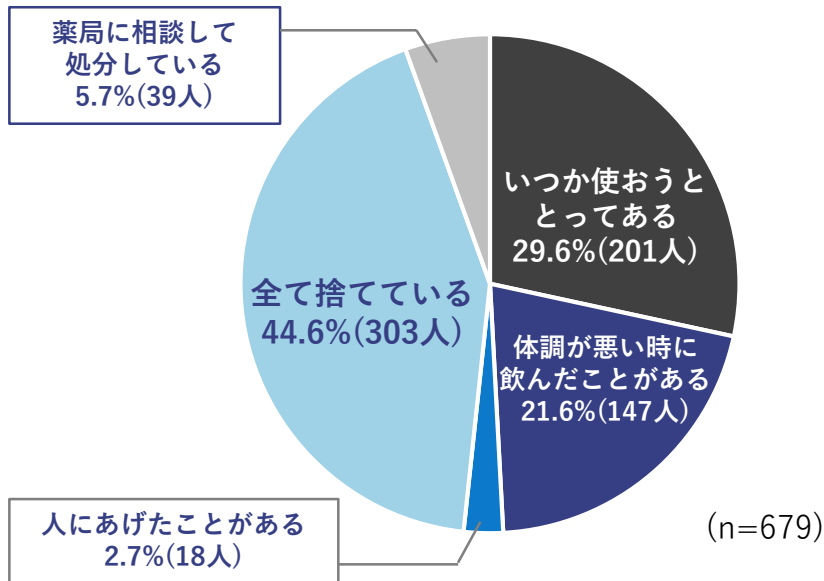


- 「最後まで飲み切っている」と抗菌薬を正しく服用している人の割合は年齢が高くなるほど大きくなった。また、「治ったら途中で飲むのをやめる」と誤った抗菌薬の服用をしている人の割合は年齢が若くなるほど大きくなることから、若い人のほうが抗菌薬の正しい服用について理解していない可能性が高いことがわかった。

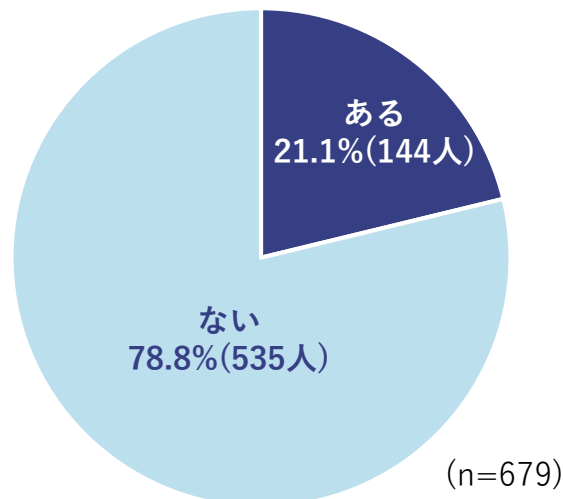


- 最後まで飲みきっている
- 治ったら途中で飲むのをやめる
- 途中で忘れてしまい飲み切っていない
- 最初からできるだけ飲まない

(8) 飲み残してしまった抗菌薬・抗生物質はどうしていますか？



(9) 家族または他人からもらった抗菌薬・抗生物質を飲んだことはありますか？

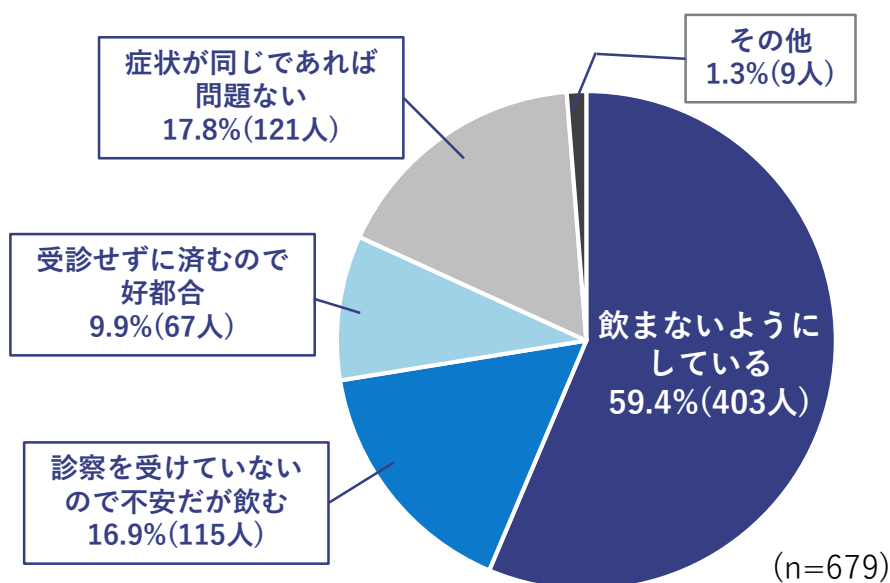


- 「飲み残してしまった抗菌薬・抗生物質はどうしていますか？」の設問において、「いつか使おうと思ってとってあるがそのままになっている 29.6%」「体調が悪い時に飲んだことがある 21.6%」「人にあげたことがある 2.7%」という結果となった。また、「家族または他人からもらった抗菌薬・抗生物質を飲んだことはありますか？」の設問において、「ある」と回答した人は21.2%と2割以上いることがわかった。

(8) (9) 2つの設問の結果から、抗菌薬を使いまわしている人が多くいるということが伺える。

(10) 家族または他人からもらった抗菌薬・抗生物質を飲むことについてどう思いますか？

- 「飲まないようにしている」人が59.4%いる一方で、「症状が同じであれば問題ない17.8%」「診察を受けていないので不安だが飲む16.9%」「受診せずに済むので好都合9.9%」と誤った考え方をしている人が一定数いることがわかった。



【考察】

今回は、一般国民を対象にした抗菌薬・抗生物質に関する意識調査を実施した。本調査により、抗菌薬のことを知っていると思っても、抗菌薬・抗生物質が本来効かない「かぜ」「インフルエンザ」に効く、あるいはさまざまな症状を直接抑える薬である、抗菌薬ではない薬を抗菌薬であると回答するなど、正しく理解していない人がいることがわかった。

また、若い人ほど抗菌薬・抗生物質の作用を誤解していたり、正しい服用ができていない傾向があるなど、年齢により抗菌薬についての知識に差があることもわかった。本調査から、抗菌薬・抗生物質について、正しい知識を持っていないために誤った服用をしてしまっていることが考えられるため、今後も一般国民に向けさらなる普及啓発を実施していく必要がある。